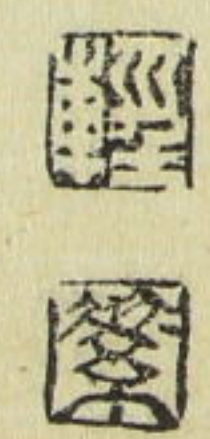


曲は時よのいささかあつはなはかあるもの
 けがらもあらうと吾夫人のさへもあつはなはか
 りせに曲は教よのいささかあつはなはか

ゆがみもあらうと吾夫人のさへもあつはなはか
 ゆがみもあらうと吾夫人のさへもあつはなはか

秋光菴 輕素居士



あつちのうらみ片歌てふしをすほふ。あつちのうらみ
久ヒサにあやまひの心を志す小をし。されど日暮タタ延ビ
緯タキのさりとていと廣し。事は横さゆり志こ
とやとていばたんとす。事あるに夜の今を
解トキ波ナミのむは。事あるに飛タビ波ナミをりてとてさうで
あつちのうらみ。海ウミのうらみは。ふゆらん。あつち
あつちのうらみ。色をうらみか。色をうらみか。あつち
うらみ。あつちのうらみ。色をうらみか。色をうらみか。あつち
あつちのうらみ。色をうらみか。色をうらみか。あつち

おのうらみ。あつちのうらみ。色をうらみか。色をうらみか。あつち
あつちのうらみ。色をうらみか。色をうらみか。あつち
あつちのうらみ。色をうらみか。色をうらみか。あつち

あつちのうらみ。色をうらみか。色をうらみか。あつち
あつちのうらみ。色をうらみか。色をうらみか。あつち

旋歌片歌

あつちのうらみ。色をうらみか。色をうらみか。あつち

あつちのうらみ

旋頭歌片歌

新葉つむ枝がまゝ紐をいゝあつむ

吸露菴中 破了

鳴むとくまはとくまの喚起をそとぬ

東起

あゝと冬底多の歌頭いすゝぬく先

青藍

いゝはゆ吹とよそやく梅を遣くえむ

雲郎

いや瘦に瘦一太腹も芽針せひぬ歌

兩石

くら霧し障が障るん葉はゆきゆきハ

総九

東武

標槍のりくまは跡は若者間之れ

輕素

松伊は一本まきとさほくくうな

呂舟

金椽棠や若人宿 飛遊小跡 趣

舊掛

秋午のゆぬ枝ハ梅まごう

秋午

浪盤は水溜くくや 澤しゆり

其梅

梅はたさか

梅添

玉員

玉員

又又

又又

楚岫

楚岫

鳥又

鳥又

雨萱

雨萱

深魚へも春に虫やスミレ草クサし葉

瓊戸

去りてハ此痛くも世一も葉枯

一始

落しとも拾ふも木ツツ松マツやも葉枯

抽兔

浮橋フキハシのよりとと言きガ雪ユキうも

李北

るケキキさみにトコト張ハびト女メ妻ウうれ

矢海

旋頭セントウ歌片カ歌カヲスまスるカやカ小コ菴ソウのノまマけケさサゆユ梅ウメがガ冬フユ来キたタも

百枝

轉一マねネ何ナニもモへヘもモやヤぬヌ意イ間マ小コ

百弁

山ヤマ伊イハハ花ハナのノうウいイくクきキうウいイハ

深魚



下総鈍子

荻丈

りも西へ袋の出まは柳うも

蘭溪

波幾を凌まき言一初日歌

越後新瀉
子永

月へも花やくもてし花は春

初音や物の事は花がぬら

霞舟

まろくも花もホ欵カーカやヤ小コ松マツ枕

カヘリハナ
花

やろくも月もカ花ハナもモ恋コイーカ花ハナ

おとよき夏も立たかき涼しけ
本位を他より吸家よりは極麻をすむ

釋を字く教にもるはと掃枝の那

後まゝのハ等あゝ首や々新法家

尊化して舊の代るは鶴の了急

隠れまの日はさるる侍落毛ふは

其友花は涼荷もかく本の間小



加賀金沢

南蘆

其友

能登七尾

晚九

日法あゝの年時うゝきや家柱

まひ神々後ハトのそすゝぬ程々奇

梅々鳥や戸法突く喜ハお不さめほど

こはは何どのいゝをいゝあゝさめはたよを
結まびておるえゝを出しぬ

吐き人の教を見せぬやうせんま花

花ハこやのいろほど

やじくる能くさるま

清宗たうび

七宝を花やほい先て福壽子

輪島
文帯
加賀松任
尼素園

飛彈高山
滄洲



越後高田
和水

花のひよりの後ハ見えぬ梅も花
 夢案や伊の素袍も代りあは
 夢案や鶴は能くうち濡れて長靴
 口うくさりにててもきりー松の蔭
 夢案に色をつまうりおまら雨
 踏うかく雁ハ飛して スミレクサ 菜
 夢案はまけてもくー カキ 水
 こまてまてく見むと柳ハ ツキホ 枝ハ
 伊於も夢案のしうぬたをれ

素琴
 李洞
 梅宇
 高津
 文鷗
 今町
 里方
 荒井
 鷺大
 兩善寺
 艦亭
 甲州
 吳江
 如岱

獵カリウダ 史に新藤ハさせび雄たあふ
 夢案や曲ッの家ノ ねまうく

瑪曉
 不殘

林ヤ 著入を障ハ信もや春も雨
 鶴の段をくほやみそまてぬ

浪華
 一鼠



鶯の戸も北へハ窓は梅もつれ

信濃岩村田

雞山

陽光やくもあそりぬ 櫻花も

首に並ば飯をそ花とま〜も
信濃の片〜たを城え路〜むとあ信に
象水筆書信はさるる歌何〜りふを
結ぶびまの〜

懐は料紙暮やけ 菊 沢 菜 くれ

人目にハ 鶯 藤 くらし 猫 走 くれ

喚起を 花 唐 さらりや 花 走 くれ

七

扇柳

柯則

山郎

あ〜るや 東のるにるも 候〜来

拙牛

菊〜と 草を 掃出を 柳〜り

菊明

暮雨やま〜横に 梅 寄も つ〜

信夕

日 新 ありの 紙 拾に 徹 寄 羊 蹴 躑 寄

帶路

あ〜いり〜 起 込 多 ひや 梅 好 くれ

千斯

川 暮 八 河 む ぶ 存 可 雄 中 へ 急

崎繪

茶 新 戸の 子 切 水 寄 柳 くれ

八

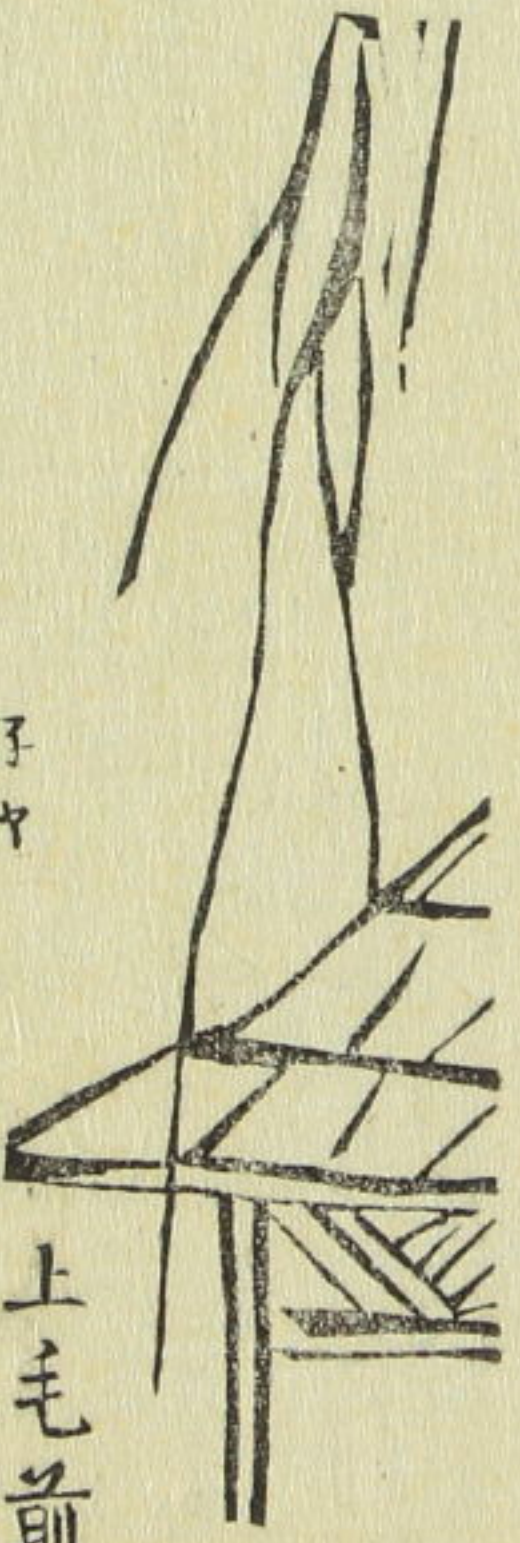
よ 巾 火 燭 も 掃 寄 菊 掃 くれ

霞江

節の枝はふらふらな枝や花の中
 糸游は骨に茶一房やる花は
 あり地に落しきまきり音長す子
 游く子を見せむ遊むむ種は
 春と見て晴のやうし初志は水
 懐へは来ぬ入海やるがさ
 鷗を叩てうき海ありまうか
 枝に葉のかへは見えぬ枝葉は

小諸 虚舟
 布川
 榊和
 戸煎
 岩村田 阪桑
 雞山

旋頭歌片歌 カツラ
 黄柳を蓋にふるまを蝶が園戸ハ



上毛前橋
 黄牛

油葉やどり火神やまはあ先
 川船の言う流る枯野うき
 いの字にも讀む不あは アエノウノ 釋
 名季休や川の静に越しくゆく
 月ハ波へふくみ流しは ハ 釋
 縁立の春ハ ヤブ 縁を〜ひ

雙瓜
 麥汀

あはれまゝに解ハカシの摺カキや、はな解

笑洲

いぢりゝも玉ハのあまびきハこも

、

粗サレヒキ公や叱ヒつゝを顔ハばハあハま

、 鴉路

産ハを借ハの形ハ、くハるハあハまハくハはハくハ

、

巻ユカシゝゝハまハはハ満ミツやハゝハまハ描カキ

、 船涼

起タチキハ際ハに男ハ、氣ハハハるハくハゝハくハ

、

ちハゝハくハをハ胸ハのハあハゝハりハやハ傀ハ儡ハ作ハ

、 胡曉

鏡ハりハぬハまハぐハまハくハとハゝハまハるハ月ハ

、

後ハ見ハせハくハ柳ハにハちハゝハくハかハちハがハらハ

、 露月

袖ハにハはハ冷ハひハあハまハくハ赤ハ待ハきハさハくハ

、

乙ハ多ハはハ取ハ持ハあハりハくハ柳ハ、ハ柳ハ

、 里橋

くハちハゝハくハもハ一ハをハ纏ハくハやハまハくハまハくハ

、

蒲タンホニ公ハ英ハやハ持ハまハまハをハ出ハまハくハ河ハ待ハ

、 樹蜂

日ハちハちハくハくハ強ハくハ侍ハ者ハくハ水ハ仙ハもハ

、

雁ハもハ皆ハ伊ハれハむハ愁ハくハ岸ハ流ハひハまハ

、 燕山

笑ハ差ハにハ一ハ里ハをハ若ハ侍ハ者ハあハまハくハ

、

治ハ津ハ酒ハやハすハくハくハ款ハのハ横ハふハくハ

、 吹雁

火ハ城ハゝハ作ハのハ出ハ流ハやハまハくハ原ハ

、

息^{サイ}其^イに^イ汲^イく^イ岳^イは^イし^イ桃^イ名^イ花^イ 平胡

江^カ豚^カけ^カや^カ二^カ度^カ三^カ度^カか^カ人^カば^カう^カり^カ 薑^カ江^カ改^カ

山^カ寺^カで^カ何^カを^カす^カく^カ麻^カ角^カ解^カ 麥^カ兄^カ

荷^カ季^カ以^カや^カ船^カへ^カ入^カて^カハ^カね^カと^カ舟^カ記^カ 東^カ奴^カ

人^カ者^カに^カ柳^カを^カそ^カる^カに^カ性^カの^カ那^カ 活^カ十^カ

落^カる^カく^カ猪^カの^カ席^カく^カ若^カ侍^カ小^カ島^カ小^カ 蛙^カ更^カ

糸^カゆ^カの^カひ^カく^カへ^カく^カ釘^カや^カ牛^カ乳^カ後^カ 活^カ十^カ

夕^カげ^カや^カく^カに^カ啼^カく^カ下^カ侍^カや^カ夕^カひ^カが^カ 活^カ十^カ

鏡^カひ^カく^カさ^カや^カお^カの^カ漆^カの^カ墨^カと^カく^カ絲^カ 活^カ十^カ

子^カや^カさ^カゆ^カく^カ雲^カに^カ若^カて^カ子^カや^カ 紙^カヤ^カガ^カリ^カ 舊^カ象^カ

水^カ他^カの^カ屑^カう^カと^カば^カう^カり^カ 茶^カ 餅^カ 巴^カ町^カ

昔^カ町^カに^カ侍^カて^カハ^カね^カし^カ侍^カ乙^カま^カう^カか^カ 女^カ 星^カ露^カ

踏^カひ^カく^カく^カ虫^カを^カ顔^カに^カ柳^カの^カ那^カ 小^カ相^カ木^カ 素^カ器^カ

嘆^カ息^カも^カや^カ柳^カを^カそ^カる^カに^カ侍^カの^カ語^カ 玉^カ村^カ宿^カ 勇^カ水^カ

思^カひ^カ居^カく^カ様^カさ^カる^カく^カ河^カ豚^カけ^カ 炭^カ焼^カの^カ素^カ顔^カで^カゆ^カり^カ梅^カ名^カ花^カ

嘆^カ息^カも^カは^カ足^カと^カお^カひ^カく^カや^カこ^カと^カさ^カい^カぬ^カ 勇^カ水^カ



ハシケヒ

橋柱のせせを出して赤橋柱々か
^{旋頭歌片歌} 言根るは宿のかひに山ぞ出ぬ
えぶさの横にいてあそ松野うね

前橋
素輪



下毛足利
漁遠

ハ景は一川笑く侍るさう那
^{アイ} け 笑く侍るさう那 田ふーど
ハ景は一川笑く侍るさう那

水巻のこを流し水巻やるざう那	斗白
清んぶも寝い濁さぬおほそくか	川
^{クヒツミ} 巻盤や柱にも出まはるる巻盤	川
^{アシロキ} 魚刺本の針はおさくく水うね	斗白
岩かどを流しては遅くやるざうか	斗白
^{ヒンスイ} 石巻にわがひき巻くく水うね	斗白
まく巻た巻をゆくりま 巻巻	魚扇
^{ヒヨリ} 押折戸のおりかたに巻巻	魚扇
巻巻巻や雨束の巻巻をあう巻巻	已醉

あけくは骨をくゆく水のを

脊セナカく胆タレのふつふ香夕シヨは

惚トひくさや々シね夫トシヨリの昔はじめ

きさ口や岩をのぞく目をさる

けやまに身はくまは海ミホ中ヒくを

底を今昔に又せ海ミホをく

初ハツメやちあひせくカフ糖カち

ふスリあげく小松を見せ海かまミが

海ウミをへくくかカへカへカへカ

都遠

帯河

榎雷

杉町

雪園は水仙候一専カまカくカ

りみづにいさかカと負カくカかへカは

海ウミ歌カと柳カをまカげカたカ録カのカ

外ウチ参カや目カにむカつカすカはカ岩カのカ

と久カ山カへカくカくカ後カまカやカ運カ橋カ

と船カをカ藤カ身カへカかカくカまカ後カまカがカ

貝カ赤カやカぞカ合カせカくカもカかカたカしカひ

俯カ白カしカ思カ案カ法カとカけカ海カあカくカらカは

そくくゆくカまカのカ候カさカよカいカまカのカ花カ

女 梶葉

女 白志

凡山

玄芝

挂里

公庭八月を憶ふ時多き事少
 暮らるる侍草にまけてやふき重
 設けりも多法さうぬ⁺碯⁺習⁺々
 吹あけく⁺巻に⁺報⁺を⁺く⁺柳⁺う⁺り
 と戸に⁺か⁺さ⁺う⁺ぬ⁺巻⁺や⁺多⁺法⁺梅
 吹く時ハ⁺塗⁺く⁺先⁺く⁺指⁺指⁺田⁺櫻⁺々
 角の⁺歌⁺素⁺さ⁺ら⁺に⁺ハ⁺落⁺て⁺小⁺事⁺ハ
 朽く⁺あ⁺海⁺拍⁺く⁺ー⁺や⁺紫⁺花⁺法⁺苑
 聲⁺も⁺足⁺法⁺も⁺い⁺ぬ⁺表⁺表⁺ハ

没垂
 如水

野田
 十字

藤川
 洞玉

一本木
 思遠

竹馬の⁺ま⁺を⁺引⁺く⁺本⁺指⁺多⁺葉⁺ハ
 嚏⁺に⁺山⁺呼⁺の⁺出⁺本⁺ぬ⁺枯⁺中⁺う⁺那⁺
 江⁺厨⁺の⁺昆⁺布⁺持⁺く⁺見⁺指⁺御⁺あ⁺ハ
 船⁺け⁺や⁺航⁺を⁺い⁺海⁺く⁺に⁺本⁺マ

板倉
 一礎

足利
 崔阜



梅⁺の⁺ま⁺下⁺ハ⁺か⁺ま⁺り⁺に⁺巻⁺た⁺る⁺に
 後⁺う⁺官⁺み⁺に⁺も⁺い⁺ら⁺う⁺梅⁺掛

足利本町
 梅里

梅^{ウメ}水^{ミヅ}の^ハ柳^{ヤナギ}水

遠西

水^{ミヅ}の^ハ日^ヒ影^{カゲ}へ^ハ也^ヤ侍^シ小^コ春^{ハル}水

機^{ウチ}船^{フネ}又^{マタ}小^コ春^{ハル}水^{ミヅ}の^ハ柳^{ヤナギ}水

可考

伊^イを^ヲ侍^シ竹^{タケ}把^ヲハ^ハ侍^シ一^{ヒト}夜^ヨ子^コ林^{リン}

千山

金^{キネ}掃^{ハキ}索^{ソク}や^ヤ吊^{ツル}桶^{バケ}に^ニ是^{コト}は^ハ侍^シ也^ヤ

深山

二^ニの^ノ字^ジに^ニも^モ並^ナべ^テた^トよ^ク先^マ侍^シ也^ヤ

湖帆

水^{ミヅ}底^{ソコ}に^ニ月^{ツキ}捕^トま^リか^らや^りも^も成^ナる^ル

深竹

神^{カミ}香^カや^ヤ齋^{イハヒ}に^ニた^マす^ル也^ヤ柳^{ヤナギ}一^{ヒト}小^コハ

湖帆

手^テに^ニ燈^{トウ}を^ヲ年^{トシ}持^ツて^テ一^{ヒト}初^{ハツメ}層^{ソウ}

湖帆

清^{セイ}原^{ゲン}へ^ニ襪^{ソク}の^ノ跡^{アト}が^ハ中^{ナカ}の^ノ水

梅荷

少^コ溪^キに^ニ水^{ミヅ}よ^クく^く柳^{ヤナギ}水

梅荷

穀^{コク}は^ハ水^{ミヅ}に^ニ入^リぬ^ル小^コ春^{ハル}水

谷水

吹^{フク}た^マめ^テ水^{ミヅ}の^ノ物^{モノ}を^ヲ侍^シ也^ヤ

谷水

水^{ミヅ}の^ノ山^{ヤマ}に^ニ碎^{クズ}べ^テる^ル也^ヤ

梅荷

た^タら^しな^し水^{ミヅ}の^ノ山^{ヤマ}に^ニ碎^{クズ}べ^テる^ル也^ヤ

梅荷

北^{キタ}月^{ツキ}の^ノ影^{カゲ}に^ニ水^{ミヅ}の^ノ柳^{ヤナギ}水

梅荷

雲^{クモ}に^ニ入^リ侍^シ也^ヤ水^{ミヅ}の^ノ山^{ヤマ}に^ニ碎^{クズ}べ^テる^ル也^ヤ

梅荷

月^{ツキ}見^ミる^ル水^{ミヅ}の^ノ山^{ヤマ}に^ニ碎^{クズ}べ^テる^ル也^ヤ

梅荷

鏡とくふ田標へのびは柳のふ

梅志

物あけく彼の花やあざけりさ

木室小室にききおとぬ侍者福の取

佐野赤見
思計

神さあや先化糖田に置る見取

さげも法一本取る侍やまじり

千芝

神さあや志くらくまに吹くう流



霞あぐはたぼつうもも掃枝小

上毛新田太田

眠石

幸清へてぬまにゆくやまは月

俗侍系は藤宮ふあうり水流心

花明

常季依や藤へかきまをたはく

瓜研ぐハ打のたよりう猫の虫

栢雨

物まきくまを志づの侍紙を火

境町

茂畔

他室へ系は藤宮ふあうり水流心

見侍るかに漏へ日たさけまをう取

文睡

葉に載く花はも京色や、初志ぐん
日に白く夏花者多やう先花は来

龜岡表後
鹽車

飛ぶやうに短き日しみやささいお

青戸

七粒やそよぬきあうきあひあはれ
笠取を夕日と誠をや印しやる

布川

蓮ぬきと海にみ朝や 翠草
湖を齎うたむ水その那

其幸

たきまのさくた様もいけり甲州
井戸うも息ついで花はささく

奥好多や多たぐいど梅に橋
ついて来く後ハお春や 春 結

小泉
月人

活花酒やいど人のあぬ人いきは
春に後をかへたむむ志がが

眠棠

多きと雪に入梅やいう法を
く山はすの昔ぬ鞍るやかへり

吉田
由戸

那枝や梅も見てもあふんせど
春のに色とりと丁海や 春 原

吉海
笠叩

林葉入や橋うけを春柳 伝

上毛赤岩
文交

釋圖やどの物もを要ひまり

度江

そしきやぬがひた下ハ後にも見む

旋頭歌片歌
其の妙照信日ハくくハ新法君年立

全
今そあハひるをぬ侍もた石とる侍も



上毛桐生新宿

白保

おとくことを尋侍形リや葉スミレリサ
たむこにも後カスミの志もぬきさこのお

菊キリ秩チや、りく途に轉も本侍

周州

葉カスミうくの朝日に色や枯柘カスミも花

初ユガ出ラく重カスミ福も遠く途にカスミはく

宇冲

本ユガ教師ラに次カスミ出カスミ本侍カスミ葉カスミも花

あそぶハ何も短く一葉も花

赤翁

本オサナ教師ゴを集めく葉もや波も

雅オサナ子ゴ法ゴ起ゴてまりゴ信ゴ如ゴ轉ゴるれ

喜調

耳オサナにゴやゴのゴ本ゴもゴをゴ一ゴ寄ゴ法ゴも

懐オサナへゴ轉ゴるゴ龍ゴこゴむゴさゴくゴハ

梅林

是に兼比丘尼の亦もシカレり

原にが法廣とて出まじしは

一二梅室にハカクる先は花

梅うもや田憶書塞くもテキエハ

岩にサカ梅もさしゆや水もみ

飯の半に星々ぬ中や夢は花

吐くぬきの冷きく赤崎さし

照テるさぬが夢のしるや一月

おける心夢の梅枝や梅忠花

境野、
先馬

素行

雙魚

武村岡
岷水

圭路

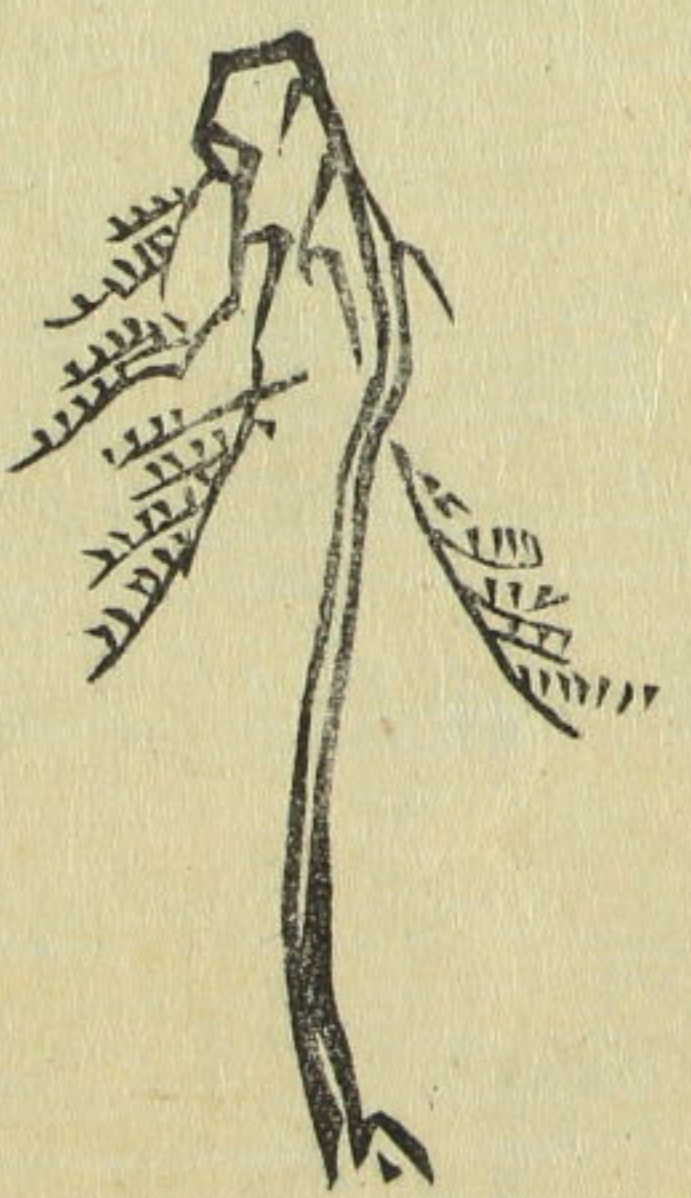
艸兔

維石

茶留

試むも砂のくくはくぐ

人暮れるとつふかど田一稔



岸一艦

雨鼻

暮雨や静に松の汁つら

たるとヒナ法ヒナのそす砂は紙ヒナ名か

吸首の枝を撥ヒナせし梅ヒナの那

漢ヒナるましく粘ヒナはるるやヒナ紙ヒナ名か

上毛桐生本町

舊礎

百ヒナ蛙

梅さくやけし後居の枝〜一計

終びの横にもまゝなるかこころを

夢見や藤の透オビゆく夢野川 東市

瓜ツメ端へさく流はうごくさ〜十兩

いつ見ても物にかよりぬやるがた

川岸に松吹さそく〜鶴城

茶葉や射にあつてか〜

産ぬ〜を退き物〜

一計
東市
十兩
鶴城

画エカク園にも身を 霜琴

た〜ゆ〜先は花

吹さく小鱗や 二川

阿〜梅は花

中〜ち〜花に 信里

あ〜〜梅は花

喚ウハヒス起るは花 涼泉

む〜花〜花

目メ〜細フキトの 英裳

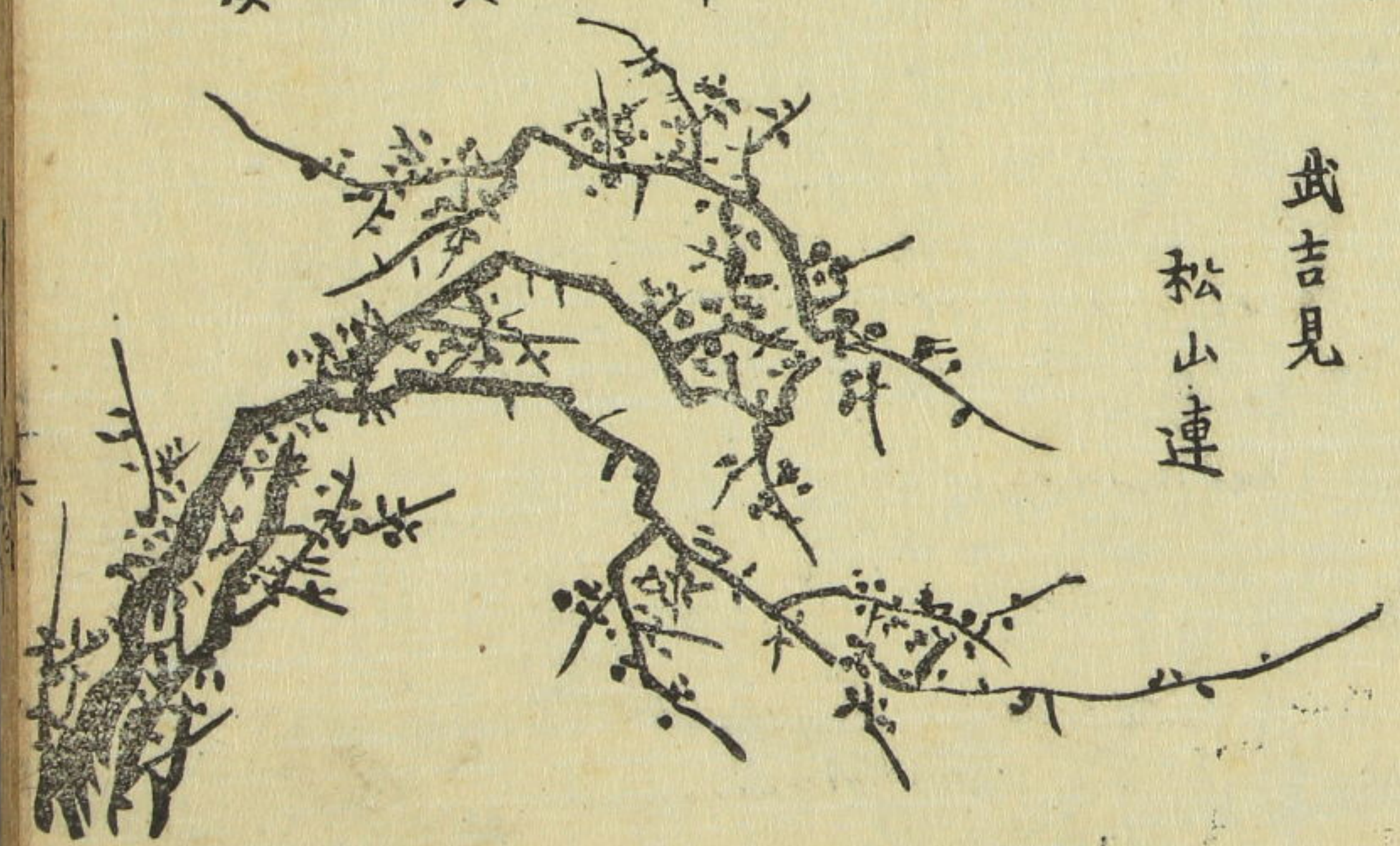
玉〜花〜花

吹〜ヒキキ花 南溪

る〜梅は花

武吉見

松山連



唐まぐ拂りぬ 糸琴

袖や初一ふれ

はまねへあうう 二川

まけふまぐれぬ

月のさし傘はハ 後里

ぬあしーふれぬ

そむる竹野は 涼亭

湯々まぐれぬ

あちろもまぐれぬ 英書

くづふまぐれぬ

水仙のぬれ 有信

ふー一まぐれぬ

十一



甲申春

足^{アト}痕のまにうまぬくま 糸琴

アリうに吹く見や知るく ね^{カヘリハチ}花

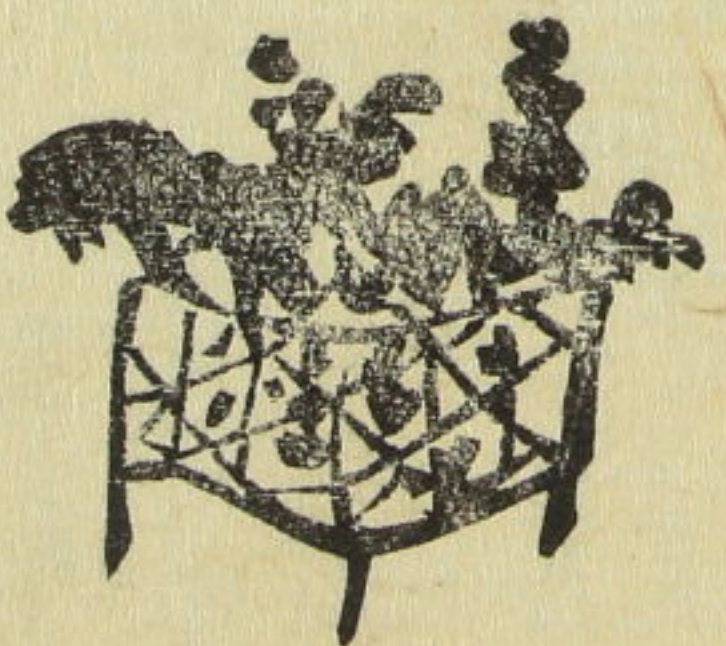
西東の目に花や林を曙^{アチ}て糸琴

詩を勤くく見侍糸琴あうぬ

いそぐい私く柳にまきう那

掃掃やけやまも之方うぬ

下野那須 百尋



常陸完戸 沽深

越後散人 仙葉

十一

のさふと見^{コト}まをとおは掃^{ツギ}杖^ホ小
物も姑^コき^コり^ハ昇^ノは若^ヒ子^バリ
足^ア痕^トを敷^キて寒^クや^スミ^レク^サ生^キ来

下野大岩
凉花

那須
茂實



下毛那須
星斗

子^コの^ノ水^ミを^ヲ皆^ヲ知^ル人^ノや^ハお^ハ不^レ海^ノ月
柳^ヤ不^レ竹^ノに^ハ臨^ミ中^ノ々^々新^ニなる^也



門松の^モ敷^キいろ^ハ中^ノ初^メ日^ノ陰

相州金目
械二

あ^ハぐ^ハや^ハら^ハの^ハ籠^ヲを^カき^テ意^ヲと^ル事^ナ

山^ノ陰^ハ細^クユ^クカ^ク建^テを^ツく^ハ一^ハハ

石芝

投^ナ出^シて^ハ河^ノ原^ノの^ハお^ハ水^ヲ流^シぬ^ハの^ハ取^リ

ぬ^ハは^ハむ^ハう^ハく^ハ流^シ入^ルお^ハろ^ハき^ハ柳^ノハ

吾石

年^ノ終^ニ尾^ノハ^ハ竹^ノ々^々ゆ^ハく^ハこ^ハ市^ノの^ハ中^ノ

大

身へ先見くくく搜きひたるが

尾尻 仙鯉

障書や不二法華を引のバー

眞如多法空人を信くは神香少

前川 知來

くちあくのぬはあ〜〜〜水史を少

山傳侍んハ〜〜〜日歌

南原 通章

おつはるに念き〜〜梅香花

遠山ハ裏山〜〜かまこは

波声

海山をゆくはあやまの寺

書物やあまがけのあやがけ

片岡 右雀

常季作や片に托子とつちて指は

地侍にハ若もろさ休やまのち

路島石

湯標の曇りまぶさ〜〜みかきこ

五雪

お水むす〜〜香の解阿は梅は葉

八川

かほ〜〜の向へ汲く見侍

牛雞

おをを幕にち〜〜お見か

鯉乗

お〜〜の起さ〜〜

お〜〜の侍〜〜

萬田 杏水

お〜〜のありゆく〜〜

清江

窓の花ハ種にもちりびり志々

物中の歌もさへ侍やう知れ共

ゆくはやちぬりのハ種もさうけ

暖うかすはにさうり表の梅

窓にも枝立あやうさ出れ共

多の草や老木も知くもかじり

杖あげく平法うさく若下子小

依草酒や水いれをさへ扱て空く

葉も秋涼にさうて片葉ふ小

花江

清長

清湖

畫江

意山

上明豊岡

蒲公英や露りて花ハ地にさうけ

身の星を素貝して見侍候 市小

佐保

吸家うーとーも

けさうひをさほんむ

とつ家に家産にもやぶとをすけ

りては柳樹小葉さうむとをす

さう奥をおいさみのこ

帆もりのぬおへぬく南やう知うぬ

珊瑚珠を提く遊うり煉をさうい

山はは打てもゆうは紫花地丁

葉葉(志)元の遠みや神志うぬ

上毛新町

禹貢

女 たつ子



相州小田原

芋魁

總ニも侍理屋もるして搗ツギホ杖ウを

水ヒつくと杓サリも下や藁ツ吾ノ花ハ

書柳や殖して庭を池を水

麥由

ねそ誂ハいそ志を彰や言を佛

松前

あはれもささきをねりたるを法華

白院

あいのり底へ思ツく根ネ竹セ葉ハ

曲江

娘君の夢タ襟スにぬさや帷ヒ像ナ結ナ

仲連



出青梅

笑林

半ニ葉ハくあぶるささや款ク冬ノ花ハ

山ニも日の新ニめは侍屋ハ葉ハ

むくふにハ山ハ鷲フ鷲ムや雛ハ結ナ了ナ急ナ

可
由

傘ハも袂ハくはに三ニ浦ノ空ハささ

本ハ棚ハおサミははるも冷ニくはるの雨

布川

戴い^ア杖^シ侍^シ巻^シ何^カ様^ハは^シ〜^ハ
 魚^ア刺^シ木^ノの^キ生^ケ杖^ノを^シ侍^シ音^ノ浦^ノを^シ
 鍾^ノの^キま^ハ生^ケ券^ノを^シ水^ノ邊^ノに^シ
 向^キ亦^キや^ハ何^カあ^リ〜^ハ杖^ノは^シ〜^ハ
 音^ノ浦^ノを^シ後^ノに^シ梅^ノ花^ノは^シ
 雙^ノ魚^ノハ^シ音^ノを^シ杖^ノを^シか^シみ^ハ〜^ハ
 音^ノ浦^ノに^シ杖^ノは^シ〜^ハ
 那^ノ杖^ノに^シ杖^ノの^キ〜^ハ杖^ノは^シ〜^ハ
 眞^ノ杖^ノ多^クや^ハ杖^ノハ^シ杖^ノは^シ〜^ハ

吟風

如峯

可考

五石

青湖

如毛

一壺

柳史改

杖^ノ多^ク杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ
 寒^ノ山^ノに^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ
 杖^ノ多^ク杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ
 杖^ノ多^ク杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ
 杖^ノ多^ク杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ

梅里

市仙

東梢

洗雪



涼宇

杖^ノ多^ク杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ
 杖^ノ多^ク杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ杖^ノは^シ



柿花ナガイシにあまぬ里や桃ウメのすれ 皇都 安里

脩シホヒ白と小舟がたぶ瀬シホヒあふ 巴白

雨を先下へ垂シホヒまゆ 子鳳

日あつりたる己へ世シホヒを糸指シホヒ火 大和芝村 蝶夢

鶺鴒シホヒ数もりぬ花シホヒ庵シホヒのよき葉シホヒ 胡周

籠シホヒ火や燈シホヒはあふシホヒと一シホヒ路シホヒまが 素絢

ちぬシホヒも古いハシホヒねシホヒぶシホヒるシホヒたシホヒのシホヒ花

船シホヒ夕シホヒハシホヒ名シホヒ神シホヒのシホヒつくシホヒあシホヒとシホヒりシホヒが

本シホヒ侍シホヒかシホヒとのシホヒ歌シホヒ梅シホヒ小シホヒしてシホヒ雛シホヒ像シホヒが 大呂

翠シホヒ翠シホヒ負シホヒりシホヒてシホヒ高シホヒもシホヒけシホヒさシホヒぬシホヒ本シホヒはシホヒ葉シホヒが

花シホヒ史シホヒにシホヒゆシホヒんシホヒのシホヒ思シホヒぬシホヒ色シホヒさシホヒ小 林焔

炭シホヒ賣シホヒはシホヒ来シホヒてシホヒ流シホヒ尚シホヒやシホヒ煉シホヒをシホヒしシホヒひ 出合邑 何來

茶シホヒのシホヒ芽シホヒはシホヒ針シホヒもシホヒあシホヒふシホヒやシホヒるシホヒはシホヒうシホヒな

押シホヒ命シホヒあシホヒるシホヒ船シホヒのシホヒくシホヒろシホヒぐシホヒまシホヒさシホヒさシホヒりシホヒぬ 上総長南

杜シホヒをシホヒ教シホヒりシホヒあシホヒるシホヒがシホヒ柿シホヒりシホヒ那 武入間川 雨

浮シホヒ輕シホヒ汲シホヒめシホヒたシホヒ富シホヒ士シホヒもシホヒりシホヒにシホヒ入シホヒ間シホヒ川 金井



信州上田

雨石

蟻城

麥二

霞跡

李郷

芳洲

古ちりしにも目眩かきしつる山 梅

顔かくもも麦ハ籠ー 雄老丁名

水雲に舟やけりせきく山さくく

神牛やまき葉にえくぬ人も出侍

下川家ハ日陰もろくく梅も花

花に世をりてせきく屋て好膝少

春雨や花のく修も出来あ出来

琴宇



武山録形

王才

甲霸

羽林

古云

伊山

〇

層たろん程の後や歌ぬく海

身親のそくも侍時雄さくあり

あくさやまもあうしぬ色ばくマ

焼草はくや飛ぶさく侍雲う水

苦いりぬ岩の物く指侍潮あく水

〇

〇



星儀^{ハシ}の^{ハシ}水に花^{ハシ}散く柳^{ハシ}の^{ハシ}水

武山野上
文東

山入の扇に^{ハシ}ほりやう^{ハシ}先^{ハシ}なる^{ハシ}花

山州

あくさや^{ハシ}土に^{ハシ}ささ^{ハシ}り^{ハシ}か^{ハシ}え^{ハシ}こ^{ハシ}む

長之

用心の^{ハシ}ろ^{ハシ}ん^{ハシ}顔^{ハシ}る^{ハシ}を^{ハシ} 藤^{ハシ}角^{ハシ}解^{ハシ}

此君

性^{ハシ}の^{ハシ}勇^{ハシ}や^{ハシ}ぬ^{ハシ}け^{ハシ}て^{ハシ}お^{ハシ}と^{ハシ}今^{ハシ}方^{ハシ}に^{ハシ}強^{ハシ}

自來

やう^{ハシ}こ^{ハシ}見^{ハシ}せ^{ハシ}ぬ^{ハシ}勢^{ハシ}の^{ハシ}形^{ハシ}や^{ハシ}ま^{ハシ}を^{ハシ}こ^{ハシ}け

柳風

林^{ハシ}葉^{ハシ}入^{ハシ}の^{ハシ}音^{ハシ}怖^{ハシ}が^{ハシ}な^{ハシ}や^{ハシ}木^{ハシ}瓜^{ハシ}は^{ハシ}花^{ハシ}

山候

目^{ハシ}志^{ハシ}隊^{ハシ}は^{ハシ}法^{ハシ}儀^{ハシ}に^{ハシ}い^{ハシ}言^{ハシ}一^{ハシ}帯^{ハシ}辛^{ハシ}夷^{ハシ}

冬掃

水^{ハシ}底^{ハシ}に^{ハシ}ほ^{ハシ}り^{ハシ}見^{ハシ}こ^{ハシ}う^{ハシ}り^{ハシ}い^{ハシ}の^{ハシ}が^{ハシ}見

舉一

車^{ハシ}の^{ハシ}野^{ハシ}に^{ハシ}音^{ハシ}あ^{ハシ}つ^{ハシ}け^{ハシ}て^{ハシ}車^{ハシ}隊^{ハシ}つ^{ハシ}く^{ハシ}い^{ハシ}か

知角

あ^{ハシ}ち^{ハシ}こ^{ハシ}ち^{ハシ}と^{ハシ}穴^{ハシ}に^{ハシ}開^{ハシ}る^{ハシ}を^{ハシ}こ^{ハシ}し^{ハシ}を^{ハシ}う^{ハシ}り^{ハシ}取

雨葉

喚^{ハシ}起^{ハシ}る^{ハシ}は^{ハシ}是^{ハシ}を^{ハシ}た^{ハシ}物^{ハシ}を^{ハシ}ぬ^{ハシ}解^{ハシ}さ^{ハシ}り^{ハシ}を

山奴

糸^{ハシ}は^{ハシ}花^{ハシ}い^{ハシ}波^{ハシ}按^{ハシ}を^{ハシ}見^{ハシ}せ^{ハシ}侍^{ハシ}摘^{ハシ}枝^{ハシ}は

李亭

蓮^{ハシ}の^{ハシ}根^{ハシ}と^{ハシ}握^{ハシ}合^{ハシ}せ^{ハシ}り^{ハシ}若^{ハシ}角^{ハシ}解^{ハシ}

甘子

連^{ハシ}り^{ハシ}一^{ハシ}小^{ハシ}田^{ハシ}柳^{ハシ}は^{ハシ}交^{ハシ}侍^{ハシ}か^{ハシ}ち^{ハシ}り^{ハシ}は

露蓋

菱ふがはりのへねや百ふも

備 雛

糸糸のう橋は交は橋枝り那

岷 郎

南うく伊は記走やう久ん花

竹 子

新^{ワカ}草やまきとたうつ馬 忠 桑

曾道大宮
杉 路

常葉木へ来くまうく水や冬は月

仙 琴

春雨に解奴とのあまう久の花

上毛館林高根
三 橋

今替くみはも磨^{フサ}草や 魚^{アジ} 巻^{ロモ} ち

露臺うくくを露臺や舞^{ヒビ} 若^バ 子

みの虫はまはも一しり 落葉ふ

芳 礎

喚^{ウケヒス}起るは神まや枝を忘れては海

武 崎 西

あの岸に柳はくくや冬木立



閑うせ海はもつがくも後春草

水 樹

橋^{ヒナメ}は物見はゆく小 草 小

皆枯水く青を水空と雄のあ

弓ハすく換ぬ葉山ふや冬は月

息災を棄法得いふはト粗サル下ハニ公

古由

常香中依に案の在る人ハナシ

他ヨソ文のゆききく母もや梅も花

琴詩

撫アム多に本く喜結つやるぶ小

濡くくく傘さぬ人や喜もる者

可卿

東くくアキ曙依ハ待むく智の者

文法の性も中よりはくぐく

笑白

冬コモリ隠炭と淡依ハ山カもく

ふ雲ハ暑結ふトぬ草ツグ水ツミ草水

祇棠

汗ヒタぶ多く山ヒタ物や冬ツバキ山ハ葉キ花

香ハハヒ花タさり依に清くくあめ葉梅

祇翠

夢子借して主ハイ親イ睡ル水チ史ド多リ水

いけくくく梅に日敷や夢チ結雨

以秀

鶏チ結ド起リさぬ船へ水チ史ド多リ水

勤くく海のにも見ふく今智結夢

五仙

行チ止ドめリ結見くぬ草履や冬くもり

すの向入智日の方や神かまみ

以言

地をまのくゆに春阿マ冬本立

振むぬ筋のまよふかへ靴履

巴臣

鏡つゝは少くあけおけくささ

見た方しておは是る里紫菀花

吳山

水多た元へおしこさしそは

海は餌を減まにあはに観る

牛もろ小腐をいふ言消水

武羽生 得牛 里郷

子足に春のまくるさるる

持船の刃もろ水く言消の

士鳳

網の目と月いあたり魚影

其は待ちと形をくづさぬ山菜花
是が夏人涼ませ海本の芽は
多は草やは菊の細工に角も
竹藪にほたりのひまきさう
蝶くをたむびる並くや草の
花武老の一汗入くあ本と
尾の長い水は流しやあは海
もがく見に水へはあぬあふり
是にまふ不二のさよふ船かきみ

菊路 忍上新郷 絲桐 加須 楚丸

錦故

李冠

武原市 原鬼



武本庄圭字母

佳月

華へまゝく人老まのこく地は花

露蔭く日紅根にかまふ花もふか

花もふぬ山の尖りや雄たふ象

後ウレロにハ扇はたはホロや冬ふりや

才又ケコナ一十の姿度も雪深や冬ふりや

間道の植にハおふくみえさくお

圭字

白水

上毛伊勢崎

蘆洲

阿里改

音州

笑風

武熊谷

雪叩

笑牛

兔由

蘆帆

伊勢上野

何鳥

夜舟

C

梅うまやめ海に開もあゝむし登

系遊と見くくやのぞいそがし地

星沢中後へそくくひむらうり船

突見其もた忍ハホカゆきぞうわはたを取

は歌く名の直海やるやあり那

魚く矢は斜リ簾くを見えハ蓋らる

雄の歌浮くや水のあゝくすし

映イリナヒ陸に度がゆくゆく柳うら

暮雨法流今深海やるさく

七九



武山大宮
未了

氷をよけ難しうて流る神さう

物ぐまふよハ暖まぬさう那
柳波

梅葉やびりー換ぬの袖に星く

冷く事こそ是を怖がふこころか
里千

繁はみふどハ流るや身ぞは
さうやまは四角にまり家さうりか

推くけくゆきを結るもつがこころか
為谷

世法中へ活ハあうりぬゆきも

武小川

おどきぬ柳たむてかをみふ

武鳩谷

牛菜は花やまゝ一人の見ぬを

沾雨

仰き法場おろくまは甚うか

越後新瀉
其舟

奥法る記竹田の星やまは法月

井波

まハ磁石の後やうめは法

下毛真岡

あは時ハ岩をあらはるこころか

亀文

水色を寄る

吐雲

是よりや浦は春

帆柱に影識

古硯

是せより浦の春

茶室は帆柱

左江

是よりや浦の春

書神はちどり

全字

あよりや浦の春

舟よりやちどりを

銀江

船へすの浦は春

そよりや浦の春

東江

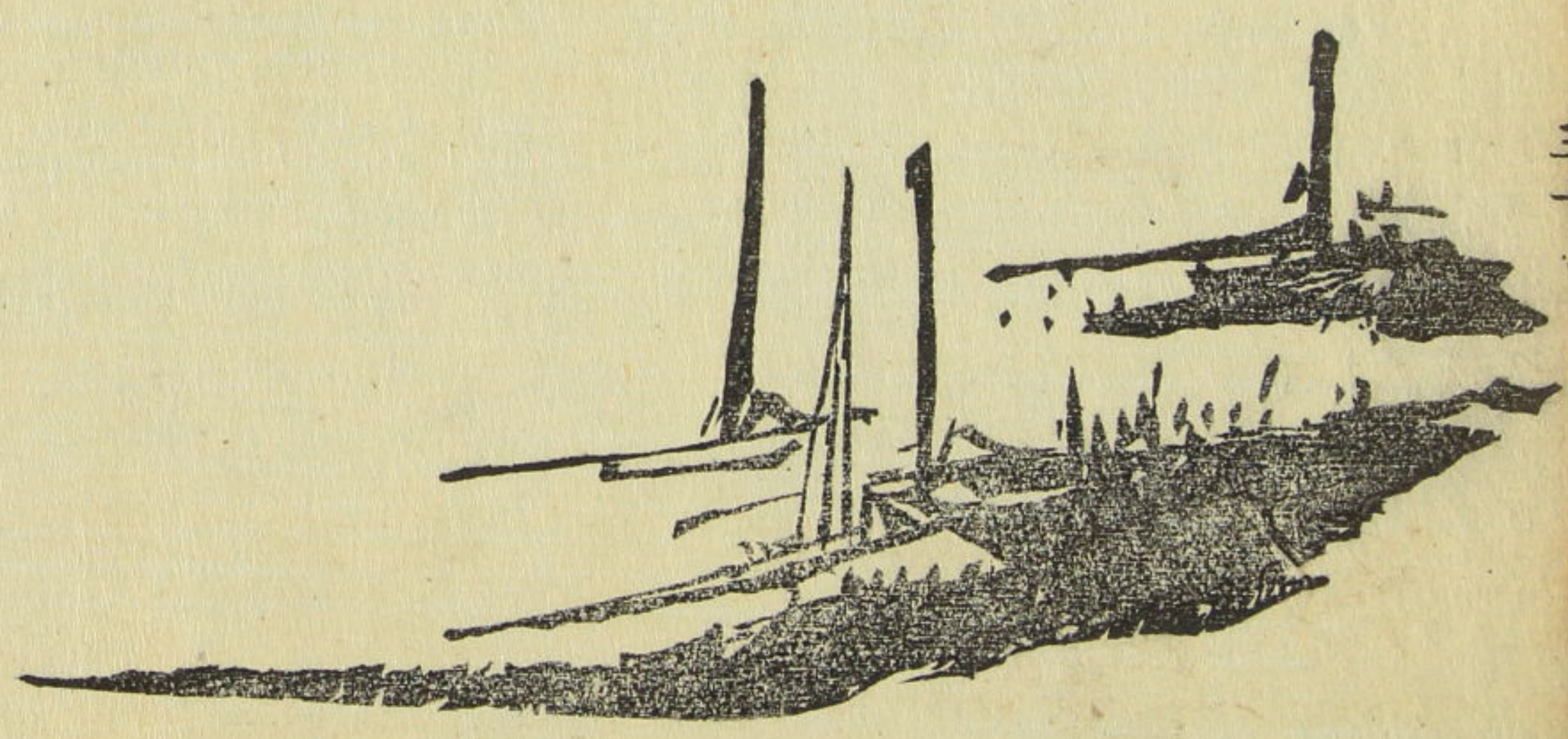
水にゆくを寄る

水にゆくを寄る

乙路

水にゆくを寄る

乙路



常葉は春や ^{エノキ} 雁の又く浦は春

乙路

是よりや浦の春

古硯

是よりや浦の春

全字

雨の浦は春

左江

今更くハ丁も見替むかへり

東江

鶴鶴の尾はいつく

銀江

あー恒の春を寄る

吐雲

春雨や水やま歩く ^{ツク} 草 ^シ 草

泉文

常春の休中京で暮らすもはかばか

新宅へ入塗に事侍 甚々 那

之形の何れやうきー ね 花

喚^{ウケ}起^ヒるや鳥の古巣を見て歩ゆく

すむも好むも多敷のやうに火

細の目にほほくをくおほくお

ほれよや柳に花を曇る見えぬ

清川へゆききておかすうか

吹流に寄^スもつすげぬ柳、うら

春里

四孔

綾女

鍾子

旭路



年ハまごころをせそく河^ウ新^カ菜^ナ水

常^ミ春^セ休^シやせりい^ミ廊^セを^シ一^カ閑^カ

梅^ウは^メ清^キいぬが久^クー梅^ウは^メ水^ミ

花^ハは^ナひや町^{チヨウ}を^シあ^ハく^ク人^{ヒト}お^ホる

解^トく^クや^ヤは^ハく^ク水^ミあ^ハく^ク念^{ネン}想^{ソウ}又^{マタ}

水^ミも^モあ^ハり^リぐら^ラし^シ流^{リウ}訪^ブる^ル海^{カイ}

近江日野流之

緑江

四道

象むうの宮くくもさう梅も花 千兆

水仙や葉を園く先く後て居侍 武埼西、 吳雪

吹れても葉架ハりて居侍 武埼西、 吳雪

よ侍に先まこくハ枝く橋枝ハ 武埼西、 吳雪

作句く後まが先侍かまの侍 武埼西、 吳雪

足痕を葉く葉につちぬ桂クち 武埼西、 吳雪

守りぬる侍情さよまこくくさ 武埼西、 吳雪

浦公英や枝るくさむの娘リ記 武埼西、 吳雪

中くと見えを葉に居侍さ 武埼西、 吳雪

千兆

武埼西

吳雪

鴻巣 椽 四

巴 鷗

子 丹

加須

鳥 湖

中新田

可 慶

下毛 栲木

青 雨

おまじまの宮くくもさう梅も花
ちくぬの影にたりく先く後て居侍
さ侍ハ葉さよまこくくさ
山位の娘ハお不る侍情さよまこくくさ
雪取まこくくさ
吾人ハ侍て居侍

今夏に

武山金骨

涼 戸

山位名の雪さよまのけくさの侍かまこ 立 鼠

ちくぬ縁侍さよまの侍ハ侍侍さよま 芳 竹



信州松本
白羽

他の里も紙すく水やたはほ月
 喚起ウケヒスもは備へてさゆき柳の柳
 歌のまゝたれうごかきやまごうれ
 路もむご水はぬほきよニヒヒあき子
 うらひまはタニツ然るそあしぬかひに
 水もは形にこけはや厚あふ

樵園
琴時
寛之
友梅
雀郎

素ほや柳かど知はさのなる
 うも夜の下に梅あまおが月
 遠山は峰下に霞といふはが
 春雨や花にる春を探出
 吹ぬ日ハ遠りば梅かサキぬこ
 門松や隣子にうらなは歌
 伊を降にまゝへ歩き宿柳うれ
 朝ゆみの煙とおろしやまごうれ
 うらひまは山峰をほそむは

素殊
夜乙
左右見
一止
麥丘
雪光
五有
有隣
素因

暖かきもつとほや華老電

上総長南
桃雨

好まらば春に控すほそさか

泥亀改
砥柱

初雪や珍凡くも雪子から松



寒花てすく色界に若てふり

信州善光寺
猿老
洞芝

あつて日さるるにゆくひがまら

嘆息を吐く玉をたるといふ

蘆錐

児を元へ初てもゆくは紙

文兆

春伊をす中候かへて帆

路友

少づい海幅も吸て船

不三

是とりみ流義ハ見くは

枕呼

今寄や蟹の脊も吹歩り

千林

浅軽冷り水もひも事や山

祇十

親に水ぬやういとまむ

鬼洲

船頭の何も清負ふかま

涼洲

北

上下の春をさし日阿婆と暮れは雨
能く水角振とて田畑の
啼く蛙水と土のふるに
四の儀とのふも根竹の
虫さしひ今もせり水も
糸糸や夏の目利と志て
多^{オヒ}遊やまの翁をねが
書行のりふ家^{ウチ}に飛ぬ
押合ふく野のせまに

阿僧
秋山 鯨石
秩父 二江
杉戸 二毛
士喬
左龍
雁志
上毛文田 巴夕
涼楓

春のや元を暮れは夜はむら
極性^{カクセイ}にすこしをぬりや
汲と海やをみし春れろ
金^{ヤカガキ}掃葉やけふ金ハる
海堂中映と春花と
後ハすづ何に春はも
多いもくふ海ハ見
月に見ゆ春のたや
吹く時ハ字形も出

上毛藤岡 少波
似竹
湖曉
梅園
下毛佐野 長眉
常陸潮来 港水
龍崎 崇江
下総横須賀 一馬

野うらやうぐいぬてををを

八日市場 舊山

粗公サルギキや一丁の啼きくくひ出

鬼白

喚ウケヒス起るや毛色に養を代イへお侍

一畝

何多はあもくも心ありむ梅高死

二字



うらうらあ日ハ多もお侍やるだバ

斗光

女暴アランシ侍の解けてかく水りあ

葉雨やうかも向ふのふばうら

女扇

本コガラシ頼侍や英一い葉も揺る

蕪里

あハ頼ふうぐいて維た一急

玉斧

橋にもさう一維てささか

太田 五綾



魚エツ目もろふりのうおあうり

小見川 亀毛

菅ツグ沢グシ草シより代イへをう

見河

作向くそこまぐ出逢や日夕葉つこ
 是官入てそく踏むや葉く葉
 夕夕夕や好ハた野とつみあふる
 大葉のあつふかやつくぐ
 志ありけいもあふ持持し猫のてい
 氣のあいまるとハアムくぬけを先ハ
 衣銀しに伊達ハアムくり猫はあ
 尾ハハ好番衆くをかがる
 舞はふも持、舞ハアムくあ

巴山
 巳十
 午涼
 牧之
 常陸府中
 鳥林
 奥州福島
 吞溟
 湖秀
 猪白
 保原
 玉川

一雨に春も飛つくやうさざが
 又巖や何見所く丸をちさ

桑折
 可負
 南部
 白扇



半歌仙

初月に都びぬ歌や松かざら
 展蕪中の後にうぬ葉は
 是侍時ハあふ小級もあふうに
 船のさつり能突出してを侍

上毛板鼻
 萬里
 安中
 文瑞
 能登
 文帶
 上毛常陸條改
 葺溪

一卵で驚へ衆向くをるれま

里見 柳專

弦を鳴らさば山がさしへた

板鼻 文兆

石くもまきい火は船づ本下暗

如巢

春いとくろハ、氣違ひでるん

一枕

子旅雛をあぶれど恰碎くもあは

東雨

後になあせそあけく夕月

一巴

感^{ヒチ}籟^{リキ}の音も煙^{タビ}水く煙^{タビ}もは

一志

夏夢の雨にふれぬほひ

女 羨谷

夢はかりく別情が恋しけりも

女 姫山

名うと見えく古い不登

文暁

妙業をすまきへても冥あつて

素後

吾事の側に馬が嘶く

禹門

浪のそよ波にる侍時花を法

吸露菴

はふた地丁につれくちりもさ

執筆

春興

魚も桑拵へくあつり梅の花

薄溪

く並に紙言の油もあふ葉小

萬里

新^{ワカ}草に思ひくても若^{オトシツ}角解

文帯



近江八幡

多少

再可

日野

子言

伊勢射沢

笑山

冠子

大口

巴山

歩けてハハ是を洗みかちりハ
子につゝ^{スレ}團もろくハ華花電
物もろく陰にもろくハ桃の花
海原に遠き法もや夕かまろく
水底へ落る合せ侍はむ記ハ
旭の品侍杖にハ落し梅も花

相可
梧井



上州高崎

麥舟

系恋ハ落しハ^{スレ}影や華花電
鏡臺の影ハ^{スレ}杖侍去ハ^{スレ}マハ

呼雪

水に盡く歌解^{スレ}ハ^{スレ}ハ^{スレ}ハ^{スレ}
惜い子も^{スレ}後^{スレ}の^{スレ}や^{スレ}侍^{スレ}ハ^{スレ}ハ^{スレ}

起鳳

お侍人の^{スレ}齋^{スレ}費^{スレ}ハ^{スレ}ハ^{スレ}ハ^{スレ}ハ^{スレ}

物^カむでも去^カ儀の中や^カ葉^カ落^カ枕^カ
 物^カ離^カる^カ緒^カへ^カ歌^カ聲^カく^カ柳^カり^カか
 焚^カ火^カや^カ志^カま^カの^カく^カ屋^カく^カぬ^カと^カ後^カ子^カ
 花^カ多^カ法^カ中^カに^カ俯^カ白^カく^カや^カ多^カ記^カり
 空^カに^カく^カ船^カを^カ色^カさ^カぬ^カ水^カく^カ水^カ
 障^カり^カら^カに^カ公^カ望^カる^カや^カ多^カ法^カ香^カ
 花^カの^カ多^カ木^カの^カ間^カに^カ人^カや^カ煉^カ拂^カひ
 梅^カは^カく^カや^カ本^カ庭^カの^カ水^カも^カさ^カご^カう^カく^カに
 つ^カめ^カご^カさ^カに^カ目^カも^カ赤^カく^カの^カ水^カく^カか

、 麥仙

、 左木

、 桐井

、 史九

傘^カを^カ多^カが^カに^カ下^カは^カや^カ多^カ記^カり
 帝^カ家^カの^カや^カ後^カも^カ特^カ法^カ人^カは^カう^カ多^カ
 吹^カく^カひ^カに^カ枝^カの^カお^カぬ^カさ^カよ^カう^カめ^カ木^カ花^カ
 埋^カ火^カは^カ星^カも^カ消^カへ^カり^カ明^カく^カく^カを
 水^カ多^カに^カ種^カ法^カに^カあ^カひ^カや^カ梅^カは^カさ^カ水^カに
 古^カい^カ日^カに^カ喜^カの^カま^カく^カ層^カく^カり
 う^カぐ^カひ^カを^カ人^カよ^カけ^カを^カて^カ神^カ香^カ水^カ
 日^カあ^カる^カや^カ湯^カや^カに^カ葉^カの^カを^カは^カく^カり

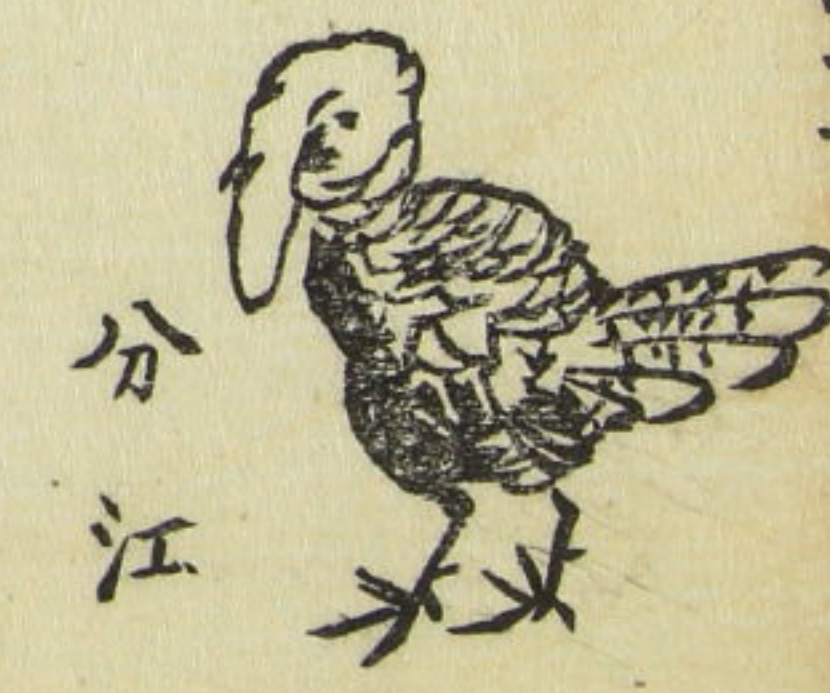
、 五挺

、 尤琴

、 小夜

、 一紅

喜^{ウレシ}し^シの^ノや^ヤも^モ夜^ノの^ノあ^アも^モ空^ノく
 照^{アキラ}る^ルや^ヤふ^フ空^ノし^シあ^アこ^コり^リ
 喚^{ウレシ}起^キも^モや^ヤあ^アけ^ケ侍^ノを^ヲ侍^ノと^トあ^アら^ラせ^セ
 梅^{ウメ}不^フど^ドに^ニ室^ノに^ニあ^アら^ラせ^セば^バあ^アら^ラせ^セ
 酒^{サケ}も^モあ^アら^ラせ^セて^テ侍^ノを^ヲ侍^ノと^トあ^アら^ラせ^セ
 春^{ハル}は^ハあ^アら^ラせ^セて^テ侍^ノを^ヲ侍^ノと^トあ^アら^ラせ^セ
 小^コ次^ジ翁^ウや^ヤ女^メに^ニ見^ミせ^セ侍^ノと^トあ^アら^ラせ^セ



分江

九江

巴穗

梅之

枯^{カラ}枝^エに^ニ水^ミ花^ハを^ヲ枝^ノや^ヤあ^アら^ラせ^セ



琳李

旋^{セン}頭^{トウ}歌^カ片^ハ歌^カ
 侍^ノを^ヲ侍^ノと^トあ^アら^ラせ^セ
 不^フあ^ア見^ミす^スと^ト空^ノに^ニあ^アら^ラせ^セ
 計^ケ小^コま^マへ^ヘつ^ツり^リぬ^ヌ花^ハを^ヲこ^コら^ラせ^セ
 水^ミ仙^{セン}や^ヤあ^アら^ラせ^セ侍^ノと^トあ^アら^ラせ^セ

東鳥

スリメニ
手鏡は手本はくらの歌や白きか

坪井鯉毛改
井花

園タテつぐぬ産に志らくとてささぐ

園タテくちの年ニル子晴に昔や、雄たゝ忽

、
吳鈞

池コウサミに馬車ウマいりくさかま

船シラウヲ魚やまゝくはせ侍花ハ有

、
自樂

本コカラシ教イシ伊イやかまらぬまの生イキ法ホウ松

室ムロももく一貫りぬもをうイハ魚イサ虫ムシと

、
東里

晴ハレめもれくちぐみくく水ミヅが

海ウミちぬまきつまはくぬかりが

、
自來

鴻カシキとくもガシキ雁カシキへを侍火カシキむらり

妻の山田に
むぐーととと

轉スキソメ初ハジメや去イの法ホウ輕カサの起オキあが

武倚居
雙飛

芝シ葉ハや昆イノ布フと侍客カキもをうイハび

風路

松マツ外ソト法ホウ伊イちチそソ先マくク弓ユミはハトト先マ

涼素

鳥トリはハやヤ物モノ火ヒのノ先マおオくクゆユく

雄飛

下シタ筋スジやヤ不フ老ロウはハ法ホウ幕マク野ノをヲ徳トクうウマ

雙羽

悔クハシ家カくク子コ種タネハハおオくク鷄トリ思オモ知チ知チ

杜門

紙シ衣イやヤ登ノボ日ヒ傳ツタ侍カキ雨アメをヲよヨもモをヲぐグ

兔雪

假山社に似合ふ 郁ウメ 草クサ

万鼠

うづくまきふゆか截まことなぐれ
かくりくま真ぶらにまあま
いぞきぬりて後らん積るまてめ
たまくとまむのぬーあーく

歌仙 紫 青 黄 赤 白 黒

上毛富岡

紫 かの雲社御くそー 神日水

雲龍舎 雲郎

茄子くくと漬はちうり夏

梅萩

孝もまぶる麻の葉に細志先く

吐涼

三人めうとぬくさ怖コホがは

龍角

紫菀圃ムラサキは暑さばすして路の目

孟龍

青 筋美にまけはせ七々ちち鞠
第細のつく時ふにちあかへは

風志 雲峨

極幸くくく極キョクが美し

李蹊

飢ヒガムル溜いと眩さが報にありり高

麥雙

友嘉くくくがく被作の又物

里曉

馬くくく下地一通漆さあく

車用

万葉社よいと海の機織と

斗十

黄 何くも小刺どたくりみ結目

雲跳

勢の技拵ハ凝いさのう奇

麥路

鶏卵ハ腐ハ本ハ爲ハ箇ハ是ハ此ハ海ハもハくハル

兔明

樹サ苗セをセ磨クこシびニ雜コ尾ビを

都風

花ハはハ幕ハ黄ハのハろハもハあハるハものハぞハむハこ

麥管

規キをセけレにキまハつト本ハ後

麥風

赤小コこコとト生セ侍シ奇キ比ヒ形カにキまハひ

桺賀

志シうウけケこコ急キのノ和ワ小コ名ナかカつツく

麥笙

廊ロウでデハハ三サンのノ四シのノゆユこコしシのノ巻マに

反鼠

刺シ試シ愈ユ論ロンこコとトアアタタニニアアツツク

梅掌

まマへヘつツもモ形カ色シのノ是レハハ形カ水スイをセる

麥搥

懐ハいハ火カ神カにニまマいハ反ハ様

蘆風

白才サもモ海カイ海カイまマもモつツもモとト着キるルもモも

周郎

一ヒトのノもモ出デるルぬヌ料リョウ減ゲンひヒくクも

其控

静シヅまマいイたタだダはハ氣キとトつツまマあアひヒをセ

行脚

花ハあア見ミつツめメもモ目メにニハハ毒ドクやヤく

江戸
東起

アサガホ赤アカ牛ウシ花ハナのノ脇ワキにニあアるルぬヌおオはハ月ツキ

総丸

今イマ剥ヒくク半ハにニ線センをセたタくクも

青藍

黒能ネ柿カキへヘをセくク懐ハいハやヤらラうウ片カく

女子規

不フ夜ヤまマのノ小コこコまマ尚ナカ遠トウ道ミチ

楯

阿蒙陀の如^カ鬱^クハカ^ク一^ク見^クて^クる^ク

白枝

大^クニ^クテ^ク志^ク取^クぬ^ク筈^ク牛^ク欄^ク

其梅

雷^カに^ク基^クて^ク来^クる^クふ^ク巻^ク花^クを^ク

破了

味^クぬ^クる^クて^ク一^ク十^ク毎^ク

雨篁

吾^カ國^クの^ク厥^クへ^ク是^クや^ク祖^クま^クハ^ク

上毛西牧
野盤

氷^クの色^ク取^クり^クて^クは^クる^ク竹^ク柳^クら^クお

白質

山^クは^ク名^クの^ク雲^クも^クを^クか^クへ^クる^ク先^クは^ク花^ク也^ク

伊勢山田
入楚

又^クか^クち^クも^ク半^クは^ク一^ク里^ク中^ク終^ク日^ク

雷^カと^ク鳥^ク

山^クと^ク水^クと^ク鳥^ク

河^クと^ク山^クと^ク鳥^ク



浪花
旧國書画

く^クふ^クほ^クの^ク子^ク古^クと

の^クく^クは^ク栝^ク椋^クの^ク卵^ク

さくさくぬきあふしの

さくさくぬきあふしの

はるかに入敷と文は海東東

春興 船は中流に一言さく小松原

さくさくぬきあふしの

たしむてぬきあふしの

喚起さくさくぬきあふしの

子は日にもさくさくぬきあふしの

旋頭歌片歌

九を重に一書見せはるまゝ

武久喜

久路

上毛上並抜

涼元

水戸大山

殊備

岩根

趙砂

江戸

楚調

行脚

宜中

お六町は舞くぬきあふしの

越高田 九弓

温るを火津へあそぶさく

東越 李北

梅くくと次身もさくさくぬきあふしの

其梅

豆城くると例ハさくさくぬきあふしの

可也

神楽やあそぶさくさくぬきあふしの

舞巾

あはれやも集はるさくさくぬきあふしの

奇雲

乃山のとくもかまりぬきあふしの

百夫

折のよはさくさくぬきあふしの

雨笠

喚起さくさくぬきあふしの

玉員

よもろくしんちの白き花を御座りおうたすんが
たすへけしめやびんをさへすえまうしん
よてはるるのうらみもあはれは探もはあが
たすへけしめやびんをさへすえまうしん

宝曆てふ申はまじつとてぬあなをに

昔をよめるものあらば

浪見

あつてはひりりきこはるおのやけのす
志けくしてあはれやうも付もあはれ
あつてはひりりきこはるおのやけのす
よめをさへすかすこくあつてはひりり
あつてはひりりきこはるおのやけのす
かすこくあつてはひりりきこはるおの
あつてはひりりきこはるおのやけのす
あつてはひりりきこはるおのやけのす

あつてはひりり

あつてはひりり

井の月形もよきとすくそくふにまの片取
よこつばこまかたふつやこる路かひはる
いとめおまひぬ流えこくんとくそくふ
くまひけて

石のまきさくろ免状をね

おめさくらおら流あれえおひそ
くろめあやらぬーろん

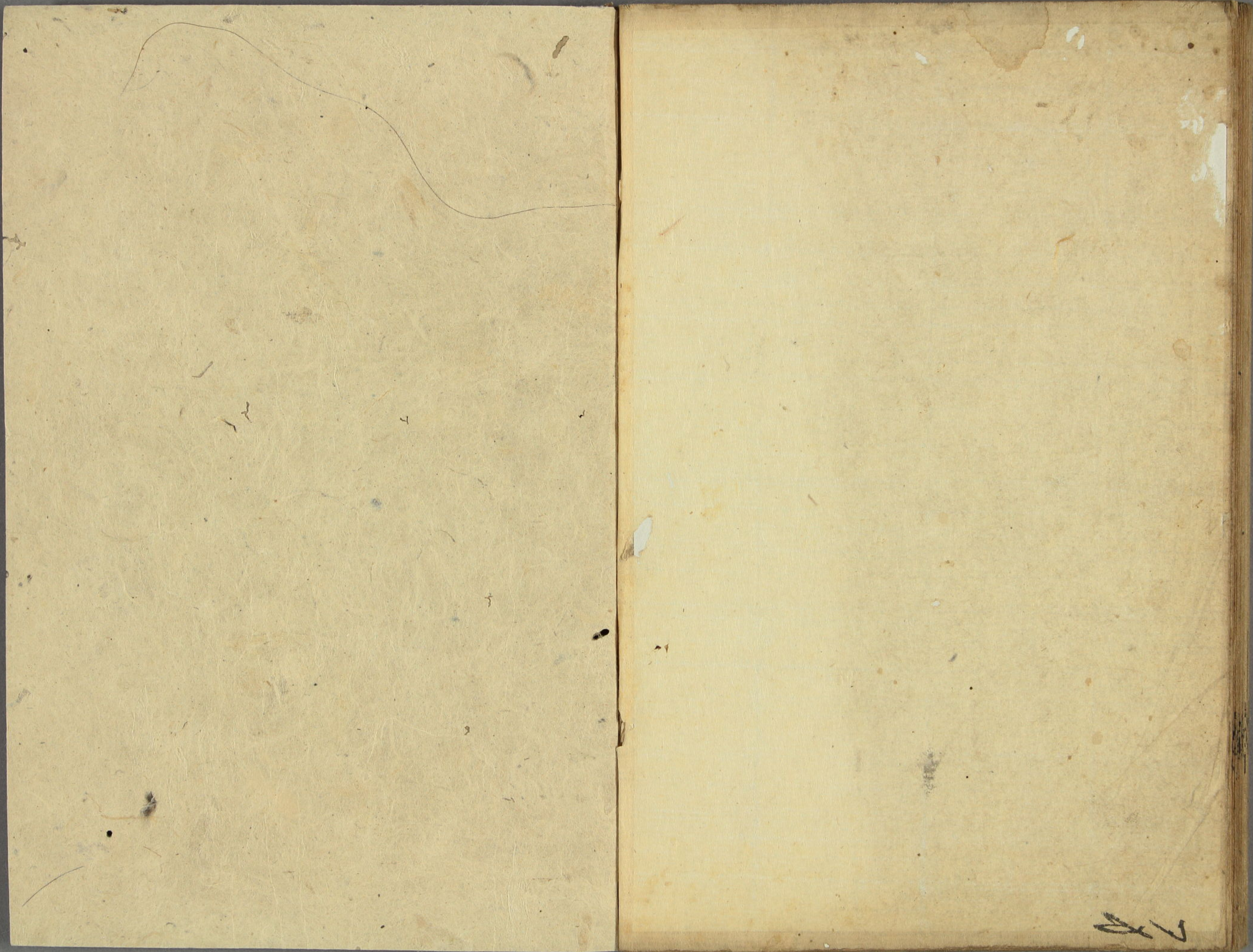
東都書肆

通本町三丁目

須原屋市兵衛

せきふりし





78

